

止水機構付EFサドル 接合のポイント

止水機構付EFサドル(以下、サドル)の施工にあたっては、パイプラインとしての性能を確保するために下記のポイントにご注意ください。

事前準備

- ・ サドルクランプ(以下、クランプ)のピンの位置またはチェーンの長さが、管の呼び径に適合しているか確認してください。
- ・ 発電機は使用する前に点検・整備を十分に行ってください。
特に出力電圧は必ずご確認ください。

施工ポイント

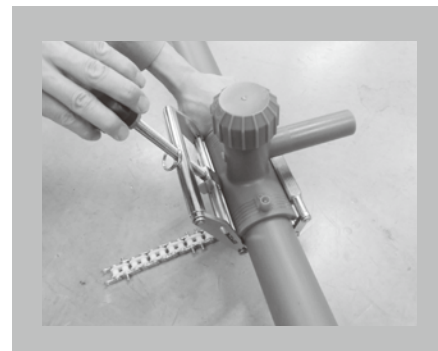
- ・ 管融着面の切削(スクレープ)は、手カンナを用いて、マーキング部が完全に消えるまで切削してください。
- ・ 管およびサドルの融着面をエタノール等を浸み込ませたペーパータオルで必ず清掃してください。
- ・ クランプを用いて固定し、ノブがある程度固くなるまで締付けてください。
この時、目視で管とサドルの融着面に隙間がない事を必ず確認してください。
- ・ バーコードの読取りには必ずサドルに同梱のカードをご使用ください。
- ・ EFコントローラでの正常な融着完了と、インジケータの隆起を確認してください。
- ・ 冷却時間が終了するまでクランプを外さないでください。



スクレープ



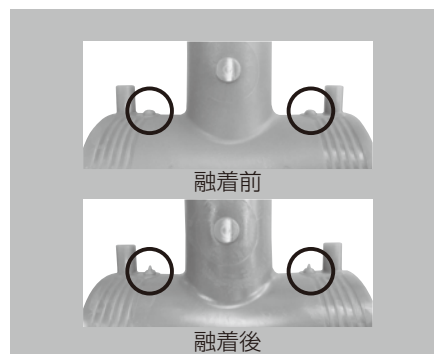
融着面の清掃(管とサドル)



管とサドルの固定(クランプ)



データの読み取り



インジケータの隆起確認

警告

この表示の欄は「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

注意

この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

- ・ 電源プラグや出力ケーブルのコネクタは、濡れた手で触れないでください。感電の原因となります。
- ・ クランプでの固定が確実でない場合などに、管とサドルの間から樹脂、電熱線が流出する恐れがありますので、サドルの近くに手、目等を近づけないでください。
また、樹脂や電熱線が流出してきた場合には、絶対に触れないでください。やけど、感電等の原因となります。

注意

- ・ スクレーパの刃は大変鋭利になっています。素手で刃に触れないでください。
- ・ エタノール等の有機溶剤の保管および取扱いにあたっては、十分注意してください。
- ・ ペーパータオルにはキムワイブ等の弊社推奨品を使用してください。
- ・ 融着面の清掃は、素手で行ってください。軍手等をしたまま行くと、融着面に繊維等が付着し、融着不良の原因となります。
- ・ 継手を放り投げる等、乱暴に扱わないでください。ターミナルピンの破損等により使用できなくなることがあります。
- ・ 管とサドルのすき間が無くなるよう確実に固定してください。すき間がある場合は、漏水の原因となります。
- ・ クランプのノブを締過ぎないでください。工具の破損、管やサドルの変形の恐れがあります。

止水機構付EFサドル せん孔およびプラグ挿入のポイント

○サドルのせん孔は、下表の「せん孔・水圧試験までの冷却時間」経過後に行ってください。

条 件		融着後の冷却時間 (クランプ保持時間) (A)	有圧時せん孔および 水圧試験実施に必要な冷却時間 (B)	せん孔・水圧試験までの 冷却時間 (A+B)
空管でせん孔する場合		10分以上	—	10分以上
管内に水圧が負荷されている状態(通水管)で せん孔する場合(管内水圧0.75MPa以下)			30分以上	40分以上
水圧試験を行った後に、 せん孔を行う場合	試験水圧 1.0MPa以下		30分以上	40分以上経過後、 せん孔・水圧試験が可能
	試験水圧 1.0MPa 超 (最大 1.75MPa)		1 時間以上	1 時間 10 分以上経過後、 せん孔・水圧試験が可能

○止水機構付EFサドルの専用せん孔機をご使用ください。

○保護具を着用して施工してください。

作業手順

1. サドルからキャップを外す。
2. 上部にアダプター、バルブ、せん孔機の順に取付ける。
3. せん孔工具に同梱している施工手順書に従い、せん孔、プラグ装着を行う。

4. 挿入機、バルブ、アダプターを外す。
(図1参照)

注) 止水プラグの上面が、サドルと同一面上であること。

※同一面上に無い場合、キャップが締付けられなくなる場合があります。

注) Oリングに汚れや傷が無いことを確認する。

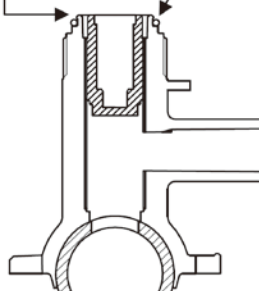


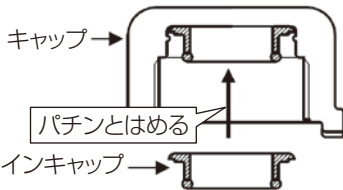
図1 挿入機を取外した状態

5. キャップを取付け、手で最後まで確実に締付ける。
(図2参照)

インキャップ

注) キャップから外れている場合、インキャップをキャップにはめてから、キャップを締付ける。

※インキャップが無い場合、キャップが締付けられなくなる場合があります。



キャップ

注) 取付けは手で行い、工具は使用しない。
注) キャップ突起部がサドルベース部に接触するまで、確実に締付ける。

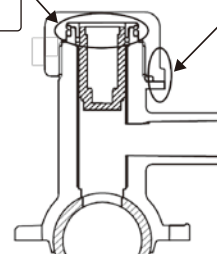
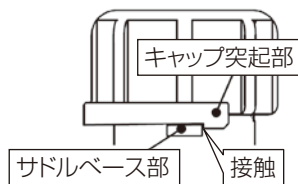


図2 キャップ取付け

6. 「プラグ済」シールをキャップ上面に貼付け、作業完了。
(図3参照)

※シール貼付けにより、プラグの挿入忘れを防ぎます。

※小さいビニル袋に、
・止水プラグ
・「プラグ済」シール
が入っています。



「プラグ済」
シール

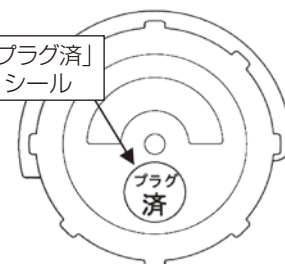


図3 シール貼付